

1. 調査の概要

令和2年度に実施した市民アンケートでは、子育て支援として力を入れるべき施策について、「仕事と子育ての両立支援の充実」のニーズが最も高くなっていることから、具体的にどのような取り組みが求められているのかを把握するため、市内こども園、放課後児童クラブを訪問し、保護者への聞き取り調査を実施。

【調査実施場所】

- ・市内こども園6園（認定こども園あゆのさと、修善寺東こども園、熊坂こども園、なかいず認定こども園、あまぎ認定こども園、土肥こども園）
- ・市内放課後児童クラブ6箇所（こひつじ園、ひがしっこクラブ、くまっこくらぶ、中伊豆放課後児童クラブ、天城放課後児童クラブ、といっこくらぶ）

【回答者数】

- ・174名（こども園利用保護者132名、放課後児童クラブ利用保護者42名）

2. 調査結果

○全体として

「現状の取り組みに満足している」または「現状に不満がない」と回答した割合が、全体の4分の3（75.3%）であり、全年代の市民を対象としている市民アンケート結果との差が確認できた。

○こども園について

短時間保育の方から「就業時間によって預けられる時間が変わってしまう」、「仕事の都合でどうしても16時の迎えに間に合わないことがある」といった意見が聞かれた。

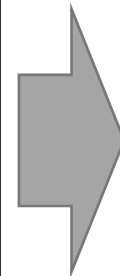
また、19時までの延長保育を行っているあゆのさと以外の園の保護者を中心に、「もう少し長く預かってくれると助かる」といった意見が聞かれた。

○放課後児童クラブについて

「定員の関係から学年が上がると預けられなくなるのではないか」、「放課後児童クラブに入るほどではないが、少しの時間預かってくれる場所があると助かる」といった定員増加や放課後の短時間の居場所を望む声が聞かれた。

○公園について

市外に出かけた際に利用する公園と、普段利用する公園を使い分けており、市内では狩野川公園や六仙の里を利用している方が多かった。



3. 求められる取り組み

○こども園について

仕事の時間と迎えの時間が合わないことから、不安やストレスを感じる保護者がいることから、時間を気にせず仕事ができるような取り組みが求められている。

○放課後児童クラブについて

放課後児童クラブに長時間預けるほどではないものの、放課後に少しでも預かってほしいというニーズが多く、そういった場所を確保していく必要がある。

○公園について

身近に利用できる遊具のある公園が求められており、狩野川公園や六仙の里の魅力化を図っていく必要がある。

伊豆総合高校 意見聴取まとめ

【概要】

伊豆総合高校との連携による地域の活性化に向けたアイデアづくり、高校生によるまちづくりの取り組みへの支援を通して、以下のような意見・アイデアが見られた。

【(参考)連携して取り組んだ授業】

H30：3年生総合学習・3年生地域と産業 R1：3年生総合学習・2年生地域と産業 R2：3年生総合学習・3年生地域と産業

テーマ	現状に対する意見	高校生のアイデア	総合計画に反映すべきポイント
中心市街地の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 西口広場は、普段は寂しさが感じられるが、イベントの際には賑わいが生まれている 	<ul style="list-style-type: none"> 西口広場の活用促進 ⇒地域の物産イベント、伊豆総合高校のミニ文化祭 伊豆総ミュージアムの更なる活用 外国人や子供にも分かりやすい案内表示 	<ul style="list-style-type: none"> ■修善寺駅周辺の賑わいづくりが求められている ■伊豆市の玄関口として利用者に優しい配慮が求められている
空き店舗の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗のシャッターが増え、商店街の景観を損ねている 	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗を活用し、休憩場所や交流スペースとして活用 空き店舗の景観改善として、シャッターにアートを描く 	<ul style="list-style-type: none"> ■修善寺駅周辺の空き店舗の利活用が求められている
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> 乗車時の両替対応や券の購入が不便 	<ul style="list-style-type: none"> バスターミナル内に券売機、両替機を設置 バスターミナルの営業時間の拡大（現在 17:00まで） 	<ul style="list-style-type: none"> ■住民や観光客が公共交通を利用しやすくなるような環境整備が求められている
環境	<ul style="list-style-type: none"> 修善寺大掃除のような活動を更に広げていけると良い 通学路のポイ捨てゴミが目立つ 	<ul style="list-style-type: none"> 修善寺大掃除を健康づくりのイベントに位置付け、地域住民と交流する 学校から修善寺駅までの通学路のポイ捨てゴミを無くす 伊豆市全体での清掃活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域と連携した環境に優しい活動の実践が求められている
オリンピックレガシー	<ul style="list-style-type: none"> オリンピック開催地として、サイクリストに伊豆市をアピールする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> サイクリストに利用しやすいカフェを整備 西口広場で子供が自転車に触れられる企画を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■東京2020大会を契機とした更なる自転車まちづくりの推進が求められている
PR	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援は充実しているが、十分に認知されていない 地域の特産品を更にアピールしていく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 伊豆市の子育て支援や子育て環境を市民に積極的にアピールし、口コミを通じて子育て世代の満足度を高めていく 幼、小、中、高での地域学習の連携とPR オリンピックを契機に、地域の特産品をアピールする 	<ul style="list-style-type: none"> ■特色ある地域づくりや積極的な情報発信が求められている

未来会議における意見のまとめ

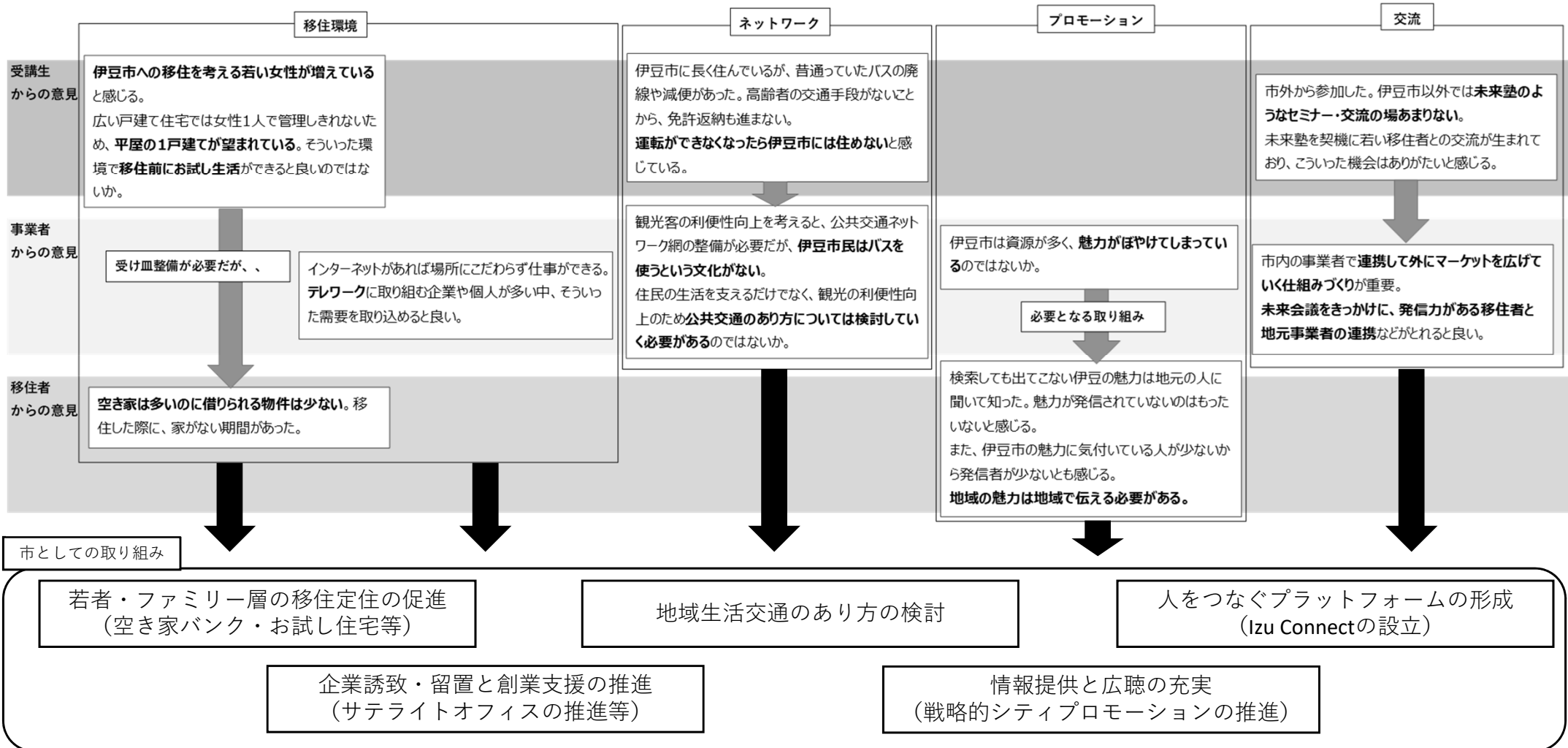
概要：10月から開催されていた全5回の「伊豆市未来セミナー スモールビジネス起業編」に登壇した講師と受講生、市長・副市長が「起業者や移住者から見た伊豆市の魅力」をテーマに伊豆市の現状分析やビジネス環境を踏まえた意見交換を行った。

開催日：令和2年12月15日（火）

開催場所：修善寺share

参加者：未来セミナー受講生 11名

講師 5名



都市計画マスタープランWSにおける意見のまとめ

概要：伊豆市都市計画マスタープラン地域別構想に関して、各地区で全3回にわたるワークショップが開催された。

開催日：第1回 令和元年11月28日 ～ 令和元年12月4日

第2回 令和2年2月13日 ～ 令和2年2月19日

第3回 令和2年7月7日 ～ 令和2年7月17日

中伊豆地区

- ・新中学校の開校に伴い、中伊豆地区の中心拠点（八幡地区）に位置する中伊豆中学校が空き公共施設となることから、学校跡地の検討が必要。
- ・中伊豆小学校は県道沿いで交通量が多くアクセスも良いので、商業施設として利用しやすいのではないかと。
- ・中伊豆小学校から中伊豆支所までの道路や歩行者環境が悪く、雨の日に歩道を歩いている子どもたちに水がはねてしまう。
（県道伊東修善寺線はあちこちに凹凸があり、道路環境が劣悪である。）
- ・将来を見据えて、大東や八岳から中伊豆支所周辺までの移動手段を考えるべき。

修善寺地区

- ・新中学校の開校に伴い周辺道路の整備や、通学路、自転車の通行帯の整備が必要。
- ・修善寺駅周辺については、リノベーション等により事業者や創業希望者の参入を促していくべき。
- ・鉄道駅周辺は、立地を生かして住宅活用を進め、まずは住む人を増やすべき。
- ・熊坂地区については、狩野川公園の有効活用をすべき。

天城湯ヶ島地区

- ・地域からの転出が続いており、既存の市営住宅や月ヶ瀬IC周辺の空き地等を活用して移住促進の取り組みを進める必要がある。
- ・公共施設の跡地や空き家、廃業した旅館などへの対応や利活用を検討すべき。
- ・農地付き空き家など、多様な住宅の供給を検討すべき。
- ・文学の郷に人を呼び込む仕掛けづくりなど、新たな取り組みを行うべき。

土肥地区

- ・災害時の避難路を兼ねた歩行者空間を整備するべき。
- ・宿泊客にまちなかに出してもらうために、目的地となる魅力の強化とそれをつなぐものが必要。
- ・狹隘道路や安心できる避難場所の確保が必要。
- ・移動手段のない高齢者に対する対策が必要。

令和2年度 伊豆市職員研修「コロナ禍と地域課題を乗り越える！作戦会議」まとめ

【概要】日 時：令和2年9月15日～R3年1月14日（第2火曜日／月）15:00～17:00

参加者：30～40代の職員（公募）31人

目的：①コロナ禍・人口減少をはじめとした地域課題への対策検討
②「第2次総合計画 後期基本計画」にむけた職員の意見聴取

方法：希望するテーマ（伊豆市の4大課題）別にグループでディスカッション

内容：「4大課題」の現状分析・真の原因追究・解決のポイントを定め、具体的なアイデアを出し発表、共有、市政への反映

4大課題への解決アイデア

課題 ※事前に指定	人口減少	子育て満足度低迷	財源確保	コロナ禍
現状	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる「担い手不足」 市民と市外の方との伊豆市魅力度のギャップ有 耕作放棄地、空き家、空き店舗(増) 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て事業への満足度が低い 教育のウリが見えにくい 公園が少ない、ニーズの相違 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人版ふるさと納税 <ul style="list-style-type: none"> ・寄附額の9割...宿泊券が占める ○企業版ふるさと納税 <ul style="list-style-type: none"> ・企業に響くメニューづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の観光業等の「交流人口」(減) ・多様な働き方...ワーケーション環境不足
根本的な 問題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での役割が多い ・住む人の暮らしの充実が不足 ・空き家を貸し出せない事情が山積 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て事業実施の認知度不足 ・魅力ある教育とは？...対象が曖昧 	<ul style="list-style-type: none"> ・返礼品の見せ方、伝え方に課題有 ・地域課題解決×企業にもメリットのあるメニュー提案が望まれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力・人・資源等の活用、見せ方の工夫が不足＝地域への愛着不足 ・「関係人口」の視点による事業無 ・ワーク×バケーションのプラン不足
解決 アイデア	<ul style="list-style-type: none"> ・関係人口創出による担い手補完 ・地域コミュニティ促進 →「人つなぎ」の場創出 ・空き家対策の切れ目ない支援 →更なる移住定住促進事業の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・「育てて育つ」事業...更に見える化 →結婚から子育てまで切れ目ない支援 ・新中学校を中心とした、教育の側面支援 →多様化する社会に対応する学習環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間のノウハウを活用し、魅力あるメニューの見せ方、作り方で営業 →更なる営業促進、掲載サイトの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの「核」づくり（既存活用、まちづくりのハブ機能） ・既存コンテンツ同士の掛け合わせによる「伊豆市版関係人口」創出 →「人つなぎ」の場創出 →着地型体験観光メニューづくり ○地域・観光資源活用 ○農林の多面的活用推進 例) 農業×移住 農業×観光 等 ・行政×民間でのワーケーション整備